

平成 31 年 1 月
一般社団法人 茨城県バス協会
会 長 松上 英一郎

平成 31 年新年の挨拶

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

年頭に当たり、新春のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、西日本豪雨、台風、北海道胆振東部地震など大きな自然災害が発生し、甚大な被害が生じました。一刻も早い復興、復旧をお祈りいたします。

今年は、陛下のご退位と新天皇がご即位され、平成から新たな時代へ代わり、県内では、「いきいき茨城ゆめ国体・ゆめ大会」が 9 月に開催されます。我々バス事業者は、選手・観覧者等を安全・安心・快適に目的地までおもてなしの気持ちを持って、お運びしなければなりません。そして、ご利用された方々に「また茨城県に行ってみたい」と思っていただけのように茨城県バス協会会員各社で取り組んでまいりましょう。

乗合バス事業、貸切バス事業とも運転者の確保が重要な課題となっている中、働き方改革により、5 年後に時間外労働の上限規制が適用されますので、その対応にしっかり取り組む必要があります。

地域の公共交通を取り巻く環境は依然として厳しい状況ではありますが、全国の乗合バスの輸送人員は、平成 22 年を境に下げ止まり、その後、微増減を繰り返しております。茨城県内においても同様の傾向に有りますが、地方自治体や事業者の努力により、平成 29 年度は対前年比で若干増加しております。

乗合バス事業の健全化のためには、少子・高齢化、環境問題など社会の構造的な変化、また、価値観やニーズの多様化などに適切に対応し、地方公共団体や利用者と連携を深め、地域に密着した事業展開を図っていかねばなりません。引き続き「改正地域公共交通活性化・再生法」を活用し、国、県、市町村とともに、まちづくりと連携して面的な公共交通のネットワークの再構築を図る必要があります。

貸切バスについては、軽井沢の事故を受けて強化された運転者の技量チェックの強化、運行管理の強化等様々な安全対策を着実に取り組む必要があります。

また、貸切バス事業における事故防止を徹底し、業界全体として安全意識を向上させるた

め、一般財団法人関東貸切バス適正化センターと協力して会員事業者の営業所に対する巡回指導を年1回実施して参ります。

さらに、事業者自ら経営トップから現場まで一丸となった安全管理体制を構築し、安全文化の構築のため、運輸安全マネジメントの制度を理解し、引き続き、安全優先経営の徹底を図る必要があります。

また、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、世界一安全な輸送サービスの提供を実現するために、国土交通省は「事業用自動車総合安全プラン 2020」をとりまとめ、日本バス協会も「バス事業における総合安全プラン 2020」を定め、平成 32 年までに「交通事故死傷者数をゼロとする。」「飲酒運転をゼロとする」等を目指しております。会員各社におかれましても、この趣旨を理解し取り組んでいただきたいと思います。

特に昨年は、運転者が意識を失うといった健康起因と思われる事故が目立ちました。健康診断を確実に受診し、SAS、脳ドックの検査については、費用の一部を補助しておりますのでぜひ活用し、健康管理の徹底を図っていただきたいと思います。

貸切バスの更なる安全性の確保に向けた意識の向上や取り組みの促進を図り、より安全な貸切バスの提供を図る観点から、日本バス協会は、「貸切バス事業者安全性評価・認定制度」を平成 23 年度に導入し、平成 30 年 1 月現在、全国で 1,640 者が認定を受けております。平成 30 年度（更新）は 455 者が新たに認定を受け、内安全性に対する取組が優れているとして三つ星 174 者が認定を受けております。茨城県の事業者は 58 者が認定を受けており、内三つ星 8 者、二つ星 11 者、一ツ星 39 者が認定を受けております。この制度が円滑に運営され、安全性がお客様の判断基準となり、貸切バス事業の促進が図られることを期待するものです。

貸切バスの新運賃制度がスタートしてから 5 年を経過しようとしておりますが、引き続きその定着を図り、経営基盤の維持、安全の確保に努めてまいります。今年は「いきいき茨城ゆめ国体・ゆめ大会」が、2020 年には「東京オリンピック・パラリンピック」のサッカー競技が鹿島サッカースタジアムで開催されますので、観光振興やバス事業の活性化に繋がることが期待され、バス協会としても全面的に協力して参りますので、皆様のご協力をお願いします

更に、各種補助制度、研修・訓練の拡充を図り、会員各社のご期待にお応えできるよう茨城県バス協会、役職員一丸となって努力して参りますので、引き続き皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げ新年の挨拶とさせていただきます。